

18 錦石

"Nishiki" Stone Products

諸工芸品

磨きぬかれた光沢が美しい津軽石「錦石」



「陸奥の錦石」として名高い青森の錦石は、碧玉、めのう、玉髓などの石英に各種金属イオンが混入したことにより、複雑で格調のある色彩が交錯したものである。錦石は津軽半島周辺などで採取される天然石で、磨くと光沢とともに美しい色彩や紋様が現れる。錦石は古くからその美しさが人々に愛されつづけ、縄文時代には「勾玉」に加工されたり、室町時代には「舍利石」として尊ばれ、遠く唐・天竺まで輸出されたり、江戸時代には津軽玉と称されてかんざしなどの装飾品として珍重されてきた。現在では鑑賞用の美石のほか、指輪、ネックレスなどの装飾具としても広く活用されている。

■ 主な製品 美石・指輪・ネクタイピン

■ 主な製造工程 石の選別→大割り→小割り→型取り→研磨→洗浄→完成

CONTACT

小田桐錦石研究所 青森市西滝 3-19-27 ☎ 017-781-2347

石小屋 青森市石江字江渡 106-67 ☎ 017-781-5338

須藤錦石加工所 弘前市紺屋町 13 ☎ 0172-32-6103

えびす錦石店 外ヶ浜町字蟹田鰐ヶ淵 20-1 ☎ 0174-22-2114



■ 主な製品 スリッパ・状差し・インテリア用小物
■ 主な製造工程 皮の選別→乾燥→縄縫い→皮の染色→乾燥→皮裂き→編み込み→仕上げ→完成

CONTACT

十和田きみがらスリッパ生産組合 十和田市伝法寺平塙 37-2 ☎ 0176-28-3611



青森県の方言で、とうもろこしは「きみ」と呼ばれる。きみがらスリッパは、自然乾燥させた「きみ」の「から」、つまりとうもろこしの皮から作っている。かつて馬産地だった十和田地方は、飼料用とうもろこし「デントコーン」の栽培がとても盛んで、大量に発生する「きみがら」の再利用のために、昭和 20 年代の初めごろから作られるようになった。履き心地がよく、夏はサラリと涼しく冬はあたたかいのが特徴。また、軽くて丈夫なうえ、通気性もよい。そのため主にスリッパや草履として重宝されている。また原色の染色ができるところから、彩り鮮やかな配色も可能である。



CONTACT

20 八幡馬

"Yawata" Horses

諸工芸品

日本三駒に数えられる櫛引八幡宮の御神馬「八幡馬」



藩政時代、南部地方一の宮である櫛引八幡宮境内では流鏑馬が行われ、地方の優れた馬が奉納されていた。八幡馬はこの奉納馬を模して作られたもので、櫛引八幡宮の例大祭の際に子供の玩具や参拝客の土産物として、境内で売られていたと伝えられ、その慣習は現在まで受け継がれている。特徴は黒塗（鹿毛）、赤塗（栗毛）、白塗（芦毛）など原色を基調として鮮やかに彩られた胴体と、昔の花嫁の輿入れにみられた乗馬の盛装を模した模様が描かれていることである。

日本三駒の一つにも数えられている代表的な郷土玩具である。

■ 主な製品 八幡馬

■ 主な製造工程 組み取り→腹・足の切り出し→切り分け→削り出し→鞍・たてがみ・尾の取り付け→色付け→模様付け→衣装付け→完成

CONTACT

大久保 直次郎 八戸市根城字笛子 15-1 ☎ 0178-96-4869

株式会社八幡馬 八戸市沼館 2-5-2 ☎ 0178-22-5729

19 きみがらスリッパ "Kimigara"(Corn Husk) Slippers

カラフルかつ機能性の高さが人気の「きみがらスリッパ」



CONTACT



21 下川原焼土人形 "Shitakawara" Pottery's Earthenware Dolls

素朴で温かみがある鳩笛が優しい音色を奏でる「下川原焼土人形」



下川原焼土人形は江戸時代の後半に九州筑前で陶磁器作りを習得してきた初代高谷金蔵が、津軽藩に抱えられて下川原に窯を築いたのが始まりである。

明治時代の土人形人気による隆盛、ブリキなど新しい玩具の普及に押された大正時代の衰退という浮き沈みを経て、今まで受け継がれている。



下川原焼土人形は赤土と砂を調合した粘土を石膏の型枠にはめて形を整え、約 800 度の高温で数時間窯焼きし、最後に色つけをして出来上がる。

鳩笛や干支人形が有名であるが、実際人形の種類は数百も存在する。その素朴な形と穏やかな表情によって淡い郷愁がかきたてられる。

■ 主な製品 土人形・鳩笛・人形笛

■ 主な製造工程 粘土の調合→型ぬき→乾燥→素焼→地塗り→彩色→完成

CONTACT

下川原焼土人形製陶所 弘前市桔梗野 1-20-8 ☎ 0172-32-6888

阿保 正志 弘前市新里字上樋田 85-2 ☎ 0172-27-3766

22 溫湯こけし

"Nuruyu" Kokeshi Dolls

諸工芸品



曲線美豊かな津軽系こけしの祖「温湯こけし」



津軽系こけしの発祥地である黒石市温湯温泉。大正時代の初めに、津軽系こけしの創始者である盛秀太郎が温湯温泉でこけしを作り始め、現在はこけし工人が集まって「津軽こけし工人会」を結成し、伝統と新しさを見据えたこけし作りが続けられている。東北地方には数多くのこけし産地があるが、胴に描かれるアイヌ模様、眉を吊り上げてにらみをきかせるダルマの顔、すそ広で膨らんだ胸と極端な腰のくびれなどが、温湯こけしならではの特徴である。また胴体の模様には、津軽藩の家紋から取り入れたといわれる鮮やかな牡丹の花も使われている。

■主な製品

こけし・ダルマ

■主な製造工程

木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

津軽こけし工人会 黒石市袋字富山 72-1 ☎ 0172-54-8181

23 弘前こけし・木地玩具

"Hirosaki" Kokeshi Dolls and Traditional Wooden Crafts

諸工芸品



可憐で愛らしい「弘前こけし」、なつかしさの中に工夫を重ねた「木地玩具」



東北地方の工芸品である伝統こけしは 11 系統に分類される。その中の一つ、津軽系こけしは、主に 1 本の木から作られる“作りつけ”という技法で作られ、髪型はオカッパ頭という特徴を持ち、黒石市、大鷲町、弘前市で作られるこけしの総称である。明治時代から津軽地方内の木地師及び津軽と他県の木地師との交流が盛んに行われる中で、弘前こけしは津軽系こけしの中でも大鷲系の流れをくむものとして現在まで受け継がれている。

またこの地域ではこけし作りとともにこまやダルマなどの木地玩具も盛んに作られ、地域の人々に愛されている。

■主な製品

こけし・こま・ダルマ

■主な製造工程

木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

津軽藩ねぶた村 弘前市亀甲町 61 ☎ 0172-39-1511

24 大鷲こけし・ずぐり

"Owani" Kokeshi Dolls and "Zuguri"

諸工芸品



素朴な中にも華やぎのある「大鷲こけし」、色彩が美しい「ずぐり」



■主な製品 こけし・ずぐり

■主な製造工程 木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

島津木工製作所 大鷲町蔵館字宮本 88-14 ☎ 0172-48-2525

諸工芸品

25 善知鳥彫ダルマ

"Uto" Carved Daruma Figurines

諸工芸品



世界にたった一つだけの一刀彫ダルマ「善知鳥彫ダルマ」



■主な製品 木彫ダルマ

■主な製造工程 原木の切断→割り裂き→陰干し→木取り→彫り→色付け→完成

CONTACT

福井 強 青森市八重田 4-3-13 ☎ 017-736-7171

諸工芸品

26 目屋人形

"Meya" Dolls

諸工芸品



愛らしい絆姿の目屋乙女「目屋人形」



■主な製品 目屋人形

■主な製造工程 簾作り→衣装作り→胴体作り→衣装付け→仕上げ→完成

CONTACT

目屋人形製作部会 西目屋村田代字稻元 144 ☎ 0172-85-2828

27 ねぶたハネト人形

Nebuta Haneto Dolls

諸工芸品



今にも動きだしそうな躍动感あふれる人形「ねぶたハネト人形」



「青森ねぶた祭り」は人形型の灯籠を台車に乗せて町を練り歩く青森市の伝統的な祭りである。中でも勇壮な太鼓や笛の囃子に「ラッセラー、ラッセラー」と声を合わせ、ねぶたの前を華麗に踊り跳ねる跳人（ハネト）の姿は、北国の夏の風物詩である。

ねぶたハネト人形は、青森ねぶた祭りで躍動するハネト姿をかたどったものである。イ草や浴衣地などを原材料に、頭の笠から足先まで一つ一つ手作業で細部に至るまで丁寧に作られている。今にも動きだしそうなハネトの表情は一体として同じものはない。

■主な製品 ねぶたハネト人形

■主な製造工程 笠編み→胴体作り→顔作り→衣装作り→衣装付け→仕上げ→完成

CONTACT

今井 陽子 青森市南畠 1-16-6 ☎ 017-742-6459

28 南部姫毬

Nambu Hime Mari (Princess Ball)

諸工芸品



まるで平安朝の十二单を身にまとった姫のような「南部姫毬」



毬は古く平安時代頃から人々に親しまれてきた愛玩品である。南部姫毬のもとになるのは、綿、ワラビ、モミ殻、ソバ殻などを乾燥させて作った芯である。それを縛でくるみ下地になる色の糸を卷いたものの上に、主に菱形や三角形を組み合わせた色彩豊かな模様の刺しゅうが施される。

「七宝」「縹緲」「双鶴十宝」など、畳のへりに使われる模様の中でも高貴な場所に使われる模様をアレンジして生み出される多様な幾何学模様と色彩はほかに例を見ない独特の美しさがある。

■主な製品 姫毬

■主な製造工程 芯作り→芯の下巻→芯の上巻→割り出し→割り糸→模様かぎり→彩色→飾り房付け→完成

CONTACT

南部姫毬製作所 南部町杉沢字久保頭 24-1 ☎ 080-3332-6006

29 えんぶり鳥帽子

"Enburi" Festival Hats

諸工芸品



長い冬の終わりを告げ春を呼ぶ祭りの象徴「えんぶり鳥帽子」



春を呼ぶ祭り「えんぶり」は、明治時代以降に八戸地方で民俗芸能として定着した豊年満作を祈る「田遊び」と呼ばれる神への祈願行事である。太夫と呼ばれる舞い手が、えぶりといふ農具を手に、田の土をかきならす所作をする。その太夫がかぶる鶴、亀、松、竹、梅、えびす、大黒などのおめでたい図柄で飾られた鳥帽子が、えんぶり鳥帽子である。古来より太夫が一心不乱に舞い続けるとき、その鳥帽子には神が宿り太夫はまさに神の化身になるとされている。よってえんぶり鳥帽子はいわば農神の象徴として、太夫によって丁重に扱われている。

■主な製品 えんぶり鳥帽子

■主な製造工程 下張り→成型→絵柄の素描→色付け→たてがみ付け→前髪付け→彩飾→完成

CONTACT

小坂 勝義 八戸市長根 4-14-3 ☎ 0178-43-9327

30 津軽凧

Tsugaru Kites

諸工芸品

勇壮な武者が舞う津軽の伝統的な凧「津軽凧」



■主な製品 凧・金魚ねぶた

■主な製造工程 骨組の木取り→組立→墨書き→裏打ち→彩色→仕上げ→骨張り付け→縁紙張り付け→糸目付け→ブンブ作り→完成

CONTACT

津軽藩ねぶた村 弘前市亀甲町 61 ☎ 0172-39-1511
ねぶた・凧のなりた 弘前市石渡 2-4-13 ☎ 0172-34-4960

31 太鼓

"Taiko" (Drums)

諸工芸品

武者魂を奮い起こす勇壮な音を響かせる「太鼓」



■主な製品 桶太鼓・長胴太鼓・附締太鼓

■主な製造工程 原皮塩抜→原皮の油及び肉の除去→原皮毛抜→皮の乾燥→皮の削り→皮張り→皮縁塗装→桶胴塗装→ひも染め→組立→完成

CONTACT

渡辺太鼓店 弘前市椿町 5-19 ☎ 0172-32-9558
塙谷太鼓店 弘前市南大町 2-1-3 ☎ 0172-32-9556

32 五戸ばおり

Gonohe "Baori" (straw hat)

諸工芸品

独特の曲線が美しく実用性の高い「五戸ばおり」



■主な製品 ばおり・ミニチュアばおり

■主な製造工程 あぶつら→ふち巻き→色あぶを編む→腰の部分を編む→はねの部分を編む→ふち巻き→ふち止め→頭の仕上げ→あご布・紐つけ→仕上げ→完成

CONTACT

稻村 幸男 五戸町字新蔵長根 24-7 ☎ 0178-62-3423

諸工芸品



五戸ばおりは江戸時代末期に考案された編み笠の一種で、軽く丈夫なことから農作業などに利用されていた。

イ草の特徴である「水分を含むと網目は閉まり、雨を通さない」性質を活かし、重宝されていた。昭和 40 年代ごろに安い麦わら帽子などの普及により需要が減ったため、職人の数も少なくなったが、技術は現在に伝えられている。

すべてを手作業で丁寧に作り上げ、つばのふちに細い竹の芯を入れて整える独特的のカーブは、見た目が美しいだけでなく視界を確保する実用性も兼ね備えている。

伝統工芸品の海外展開

青森県では平成30年度から、本県工芸品の認知度向上や商談会機会を創出し、海外への販路開拓に積極的に取り組んでいます。

フランス・パリの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に出展（令和元年度）

世界のインテリア業界の先進地であるフランス・パリ市で開催された国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に青森県ブースを出展しました。県内工芸品事業者5者がブナコやこぎん刺し、津軽びいどろなどの商品を展示し、本県工芸品などのPR及び海外バイヤーとの商談を行いました。出展商品とブースコンセプトである「Re」がひとつのストーリーとなり、多くの来場者の心をつかむことができ、また、ブース内で実施した製作体験のワークショップなどを通して商品の魅力を発信することができました。



日仏友好160周年記念イベント「ジャポニズム2018」で製作体験（平成30年度）

日本とフランスの友好160周年を記念して、日本政府主催による日本の芸術と文化を世界に発信する「ジャポニズム2018」の公式イベントに参加しました。ブナコやこぎん刺しなどを製造する事業者4者が参加し、パリ市やフランス西部の古都ナント市で参加事業者による指導のもと製作体験を実施したほか、商品の展示・販売も行いました。製作体験では、来場者が南部織物のコースターグルリやこぎん刺しのくるみボタングルリなどの慣れない手仕事に試行錯誤しながら挑戦し、作業中も青森の工芸品の歴史的背景などについて次々に質問がとぶなど盛況で、見るだけではわからない、高度な技術や手間暇をこしまない丁寧な仕事ぶりなど、本県工芸品の魅力により深く触れてもらうことができました。



国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」（フランス・パリ）に展示した商品の一部をご紹介します。

ブナコ株式会社

☎ 0172-34-8715

世界自然遺産に登録されている白神のブナ原生林がある青森県は、日本一のブナの蓄積量を誇っています。このブナを活用し、テーブ状にしたブナ材をコイルのように巻き、押し出して成型するというブナコ独自の製法により、テーブルウエアやランプ、オーディオスピーカー等の独特の美しさとぬくもりが感じられる製品を提供しています。



北洋硝子株式会社

☎ 017-782-5183

漁業用の浮玉製造で培った「宙吹き」の技法を活用して生み出された、青森の自然をイメージしたハンドメイドガラスを製作しています。職人たちは、新たな技法の習得や美しい色ガラスの調合など、常に新しい技術の習得へのたゆみない努力を続け、現在では、多様な技術・技法、独自で調合する世界的にも類を見ない色数を活かしたガラス製品となっています。



有限会社弘前こぎん研究所

☎ 0172-32-0595

北国の寒さ厳しい風土の中、青森県津軽地方の農家の女性たちが生み出したこぎん刺しという技法を活用したインテリア製品を製作しています。こぎん刺しは、ただ布を補強するだけでなく、そこに様々な模様を生み出しながら発展し、現在では濃紺の麻布に真っ白な木綿糸で刺す伝統的なスタイルから、カラフルな色使いまで、現代の生活に馴染む商品となっています。



有限会社木村木品製作所

☎ 0172-87-2747

りんごの生産量では市のレベルで世界一の青森県弘前市で、今年で創業47年となる木工所です。私達は、様々な理由から薪以外には活用出来ず、毎年廃棄処分されているりんごの木を活用し、これまで培ってきた日本伝統の木工技術を使いながら、りんごの木の木目色目の美しさや肌触りの良さを活かした木工商品を製作しています。



株式会社北電

☎ 017-766-7818

こぎん刺しや組子、津軽金山焼など、青森県ならではの工芸品と明かりを組み合わせた照明器具を製作しています。また、障がいのある方が、ひとつひとつ手作りで製作した「ような」は同じ形が世界に二つとないオリジナルランプです。私達は、さまざまな作り手の方とコラボレーションしながら、お客様のニーズに合わせた照明を製作しています。

